

# 諏訪小だより

令和6年4月30日

5月号

多摩市立諏訪小学校

校長 齋藤 幸之介

明治神宮外苑いちょう並木を訪れ、年度当初に思うこと

校長 齋藤幸之介

先日行いました引き取り訓練には多数御参加くださり、ありがとうございました。今年は能登半島地震から今日までに全国で大きな地震が複数回起きておりますが、万が一に備えて年度当初の御忙しい中での実施となりましたことを改めて御理解いただき、今後共御協力を賜りたく存じます。

さて、私は昨年度の諏訪小だより2月号に、サザンオールスターズの「Relay～杜の詩」を引用して特別の教科 道徳の授業のあり方についての私見を述べました。今回も、この歌詞を踏まえながら、子供たちの学習のあり方を考えてみたいと思っています。繰り返しの内容はいかがなものか、とも思いますが、どうぞお許してください。

## 明治神宮外苑いちょう並木の素晴らしさ

先日、私は港区にある明治神宮外苑いちょう並木を歩きました。夕暮れが迫っておりましたが、入り口から聖徳記念絵画館へ真っすぐに伸びる並木道に引き込まれていく感じがしました。今は日々その緑を深くしていきますが、秋になれば黄に変わったその景色はまぶしくさえあります。かつてテレビドラマのロケ地になったのも大いに納得がいくところです。

入り口には20年ほど前のものになりますが、ここにあるイチョウは146本あり、1923年に植樹された、と記されています。今から100年ほど前、ということになりましょう。長きに亘って保全がなされながら、現在の素晴らしい景観になっています。

## 問題を投げかけ、つなぐこと

一方で、いちょう並木を含めた「神宮外苑地区」のまちづくり指針が策定されたことは多くの方がご存じかと思えます。ここには、スポーツとアクティビティの拠点、多様なみどりと交流の拠点、魅力的な文化とにぎわいの拠点になることが示されています（東京都都市整備局、2018年）。

しかし、このことへの異議が巻き起こったこともまた広く報道されました。

その中で、特に、昨年亡くなった坂本龍

一さんの小池百合子東京都知事他数名に宛てた手紙は大きく取り上げられました。

「神宮外苑を未来永劫守るために」この開発が持続可能なものなのかどうかを問題提起しています。坂本さんが亡くなるおよそ1か月前の手紙です。

坂本さんの遺志を受け継いだのが冒頭にお伝えをした「Relay～杜の詩」と言われています。坂本さんも、また、「Relay～杜の歌」を作詞・作曲した桑田佳祐さんも、自ら声を上げました。

## 私共が学ぶこと—今後の授業のために—

坂本さんの手紙には、「SDGs」「持続可能」という表現が散見されます。多摩市の教育に携わる一人として、改めてこのことを大切にすることがある、と捉えています。

特に、明治神宮外苑の再開発自体もそうですが、未来を創る子供たちは、直接・間接を問わず自らに降りかかってくる様々な課題にどのように関わっていくかが教育に大いに問われていると思います。

「Relay～杜の詩」にある「C' mon tell me now/Oh wanna talk together/Oh 穏やかに/Oh それぞれの思い/肌で感じて」には、子供たちが大切にすべき学びの姿があります。

「私に話して」「一緒に語り合おう」、決して怒らず、そして「肌で感じる」、つまり相手の立場に立って深く理解しながら、ということになりましょう。坂本さんは、「何もしなかったのでは禍根を残す」と考え、桑田さんは「頭ごなしに反対しようというわけではない」と述べています。ではどうすべきかは、もう私などが繰り返すことも憚られるところです。

そして、子供たちの学びもさらに更新されなければならない、と気持ちを新たにしているところです。皆様はどのようにお考えでしょうか。

<参考>

「特別コラム～詩に込められた思い」（小貫信昭、2023年、サザンオールスターズオフィシャルサイト）

「坂本龍一さんが神宮外苑再開発で紡いだ言葉を振り返る 手紙全文「一度失ったら二度と取り戻せない」（東京ニュース（TOKYO Web）2023年